

福島県における農地土壌中の放射性物質濃度分布図等の
経年変化について

令和2年12月25日

農林水産技術会議事務局

○福島県における農地土壌中の放射性物質濃度分布 図等の経年変化について

○福島県における農地土壌中の放射性物質濃度分布図等の経年変化について

＜留意事項＞ 2 頁

1. 原子力被災 1 2 市町村における農地土壌中の放射性物質濃度の経年変化について
..... 4 頁

2. 原子力被災 1 2 市町村における農地土壌中の放射性物質濃度分布図の経年変化
について.....16頁

(参考) 福島県における農地土壌中の放射性物質濃度分布図の経年変化について
.....22頁

○福島県における農地土壤中の放射性物質濃度分布 図等の経年変化について＜留意事項＞

・これら資料については、農林水産省ＨＰにおいて、平成23年8月から公表している農地土壤中の放射性物質濃度の測定結果（直近のデータとなる令和元年の結果を含む）及び調査点以外については、原子力規制委員会が公表した航空機モニタリングの結果を使用して濃度分布を推計したものをとりまとめたものとなっています。

・土壌試料採取と分析方法は、それぞれの調査地点においての平均的な値を得るため、各圃場で圃場の対角線の交点となる中心1点及び中心と圃場の4隅を結ぶ線上の中間点4点の計5箇所からライナー付き土壌試料採取器（5 cm径）を用いて30 cm深まで採取しました。

採取した土壌試料は0-15cmとそれ以下に分割し、5箇所の0-15cmの試料を混合して分析試料としゲルマニウム（Ge）半導体検出器により土壌中の放射性セシウム濃度（ ^{134}Cs と ^{137}Cs ）を測定しました。

この際、原子力規制委員会が公表している航空機モニタリング調査結果を基準日として土壌中の放射性セシウム濃度を補正しています。

○福島県における農地土壤中の放射性物質濃度分布 図等の経年変化について＜留意事項＞

・これら資料の採取地点及びグラフは、東京電力福島第一原子力発電所の事故後、9年間のうち、少なくとも複数年にわたって継続して土壤中の放射性物質濃度を測定した地点について、掲載したものとなっています。

また、当該市町村内において、多くの計測地点がある場合は、地域の代表点を記載しています。

・土壤中の放射性物質の測定値「5,000 Bq/kg」については、その値を超えている農用地では、表土削り取り、土壤攪拌・除去又は反転耕等の除染を実施することが適当としている目安の値であり、除染の義務付けや作付制限を行っているものではありません。

・土壤採取地点によっては、放射性セシウム濃度の測定値が一時的に増加している年度がありますが、その要因の一つとしては、農地土壤の除染を行っていないことや土壤の耕起を行っておらず、土壤の攪拌がなされていないことにより、同一ほ場内での土壤中の放射性物質に偏りが生じていることが考えられます。

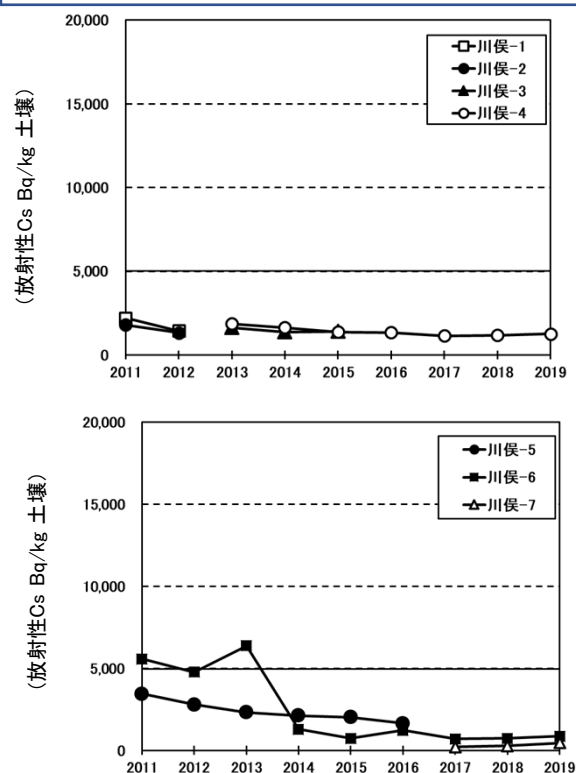
・これら資料については、農林水産省が国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境変動研究センター等に委託して計測したデータをもとに作成しています。

1. 原子力被災12市町村における農地土壌中の放射性物質濃度の経年変化について

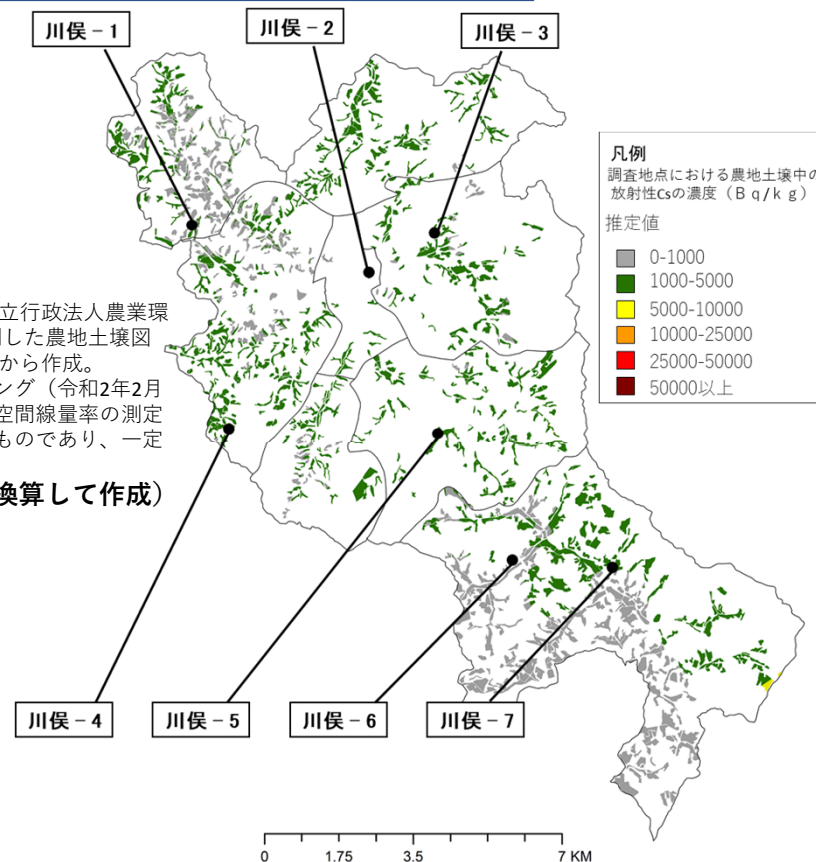
○川俣町 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成29年(2017年)3月31日をもって川俣町の避難指示区域が解除となり、その結果、町内全面解除(帰還困難区域はなし)となっている。
- ・近年の土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点

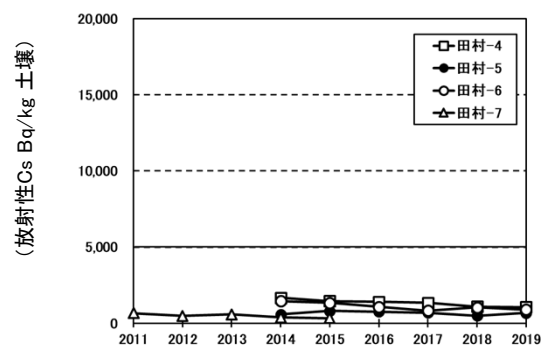
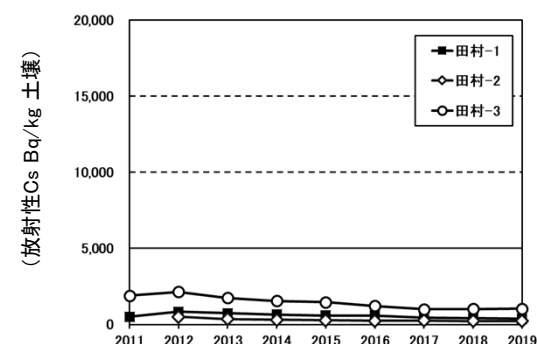


(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2001年の農地の分布状況を反映)から作成。
(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。
(令和元年11月2日時点に換算して作成)

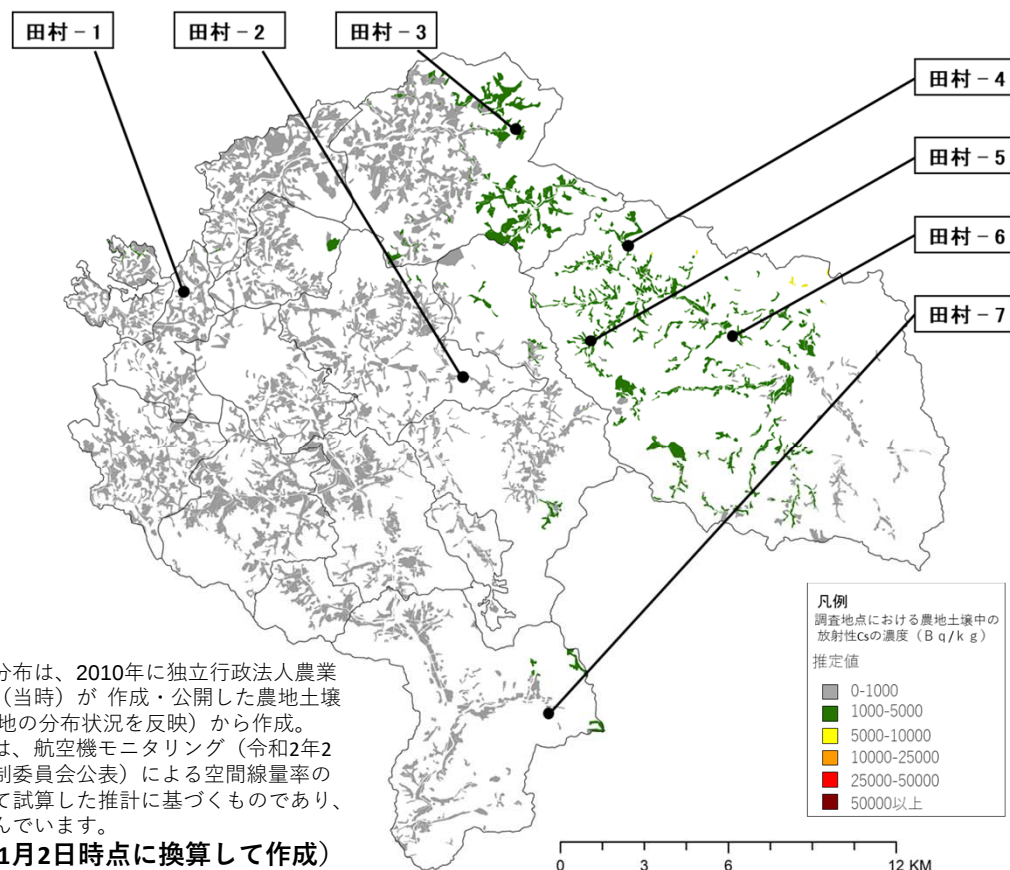
○田村市 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成26年(2014年)4月1日をもって田村市の避難指示区域が解除となり、その結果、市内全面解除(帰還困難区域はなし)となっている。
- ・近年の土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



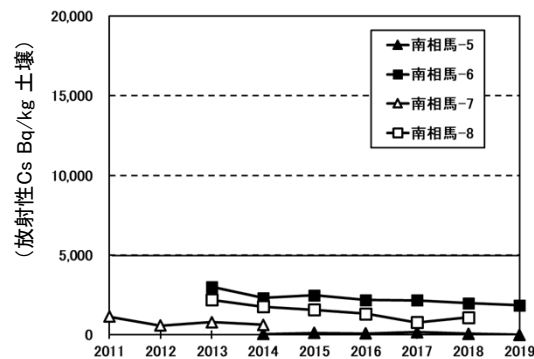
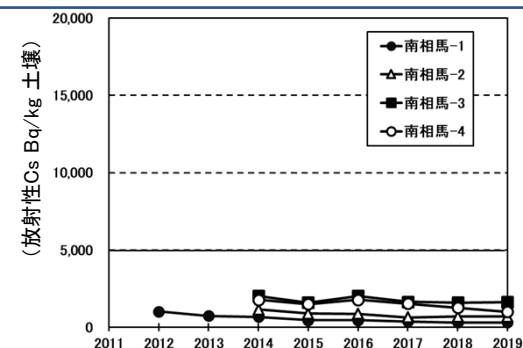
農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点



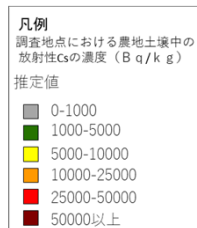
○南相馬市 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成28年(2016年)7月12日に南相馬市の避難指示解除準備区域・居住制限区域が解除となり、現在は、市内の一部が帰還困難区域に指定されている。
- ・近年の土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。

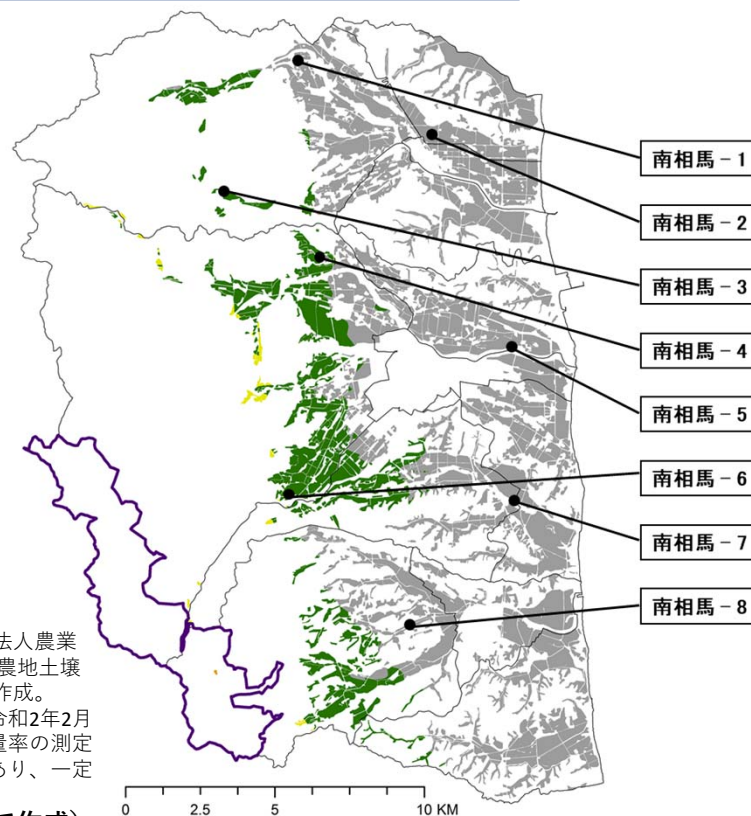
土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点



(注) 紫色線内は、帰還困難区域に指定されているエリア



(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2001年の農地の分布状況を反映)から作成。

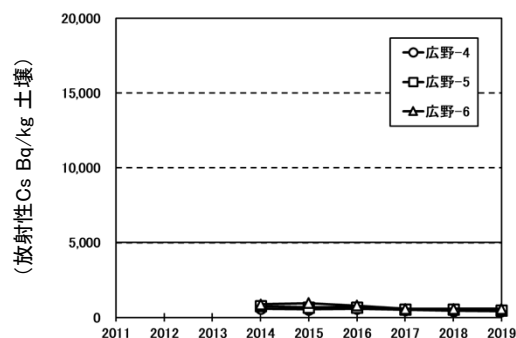
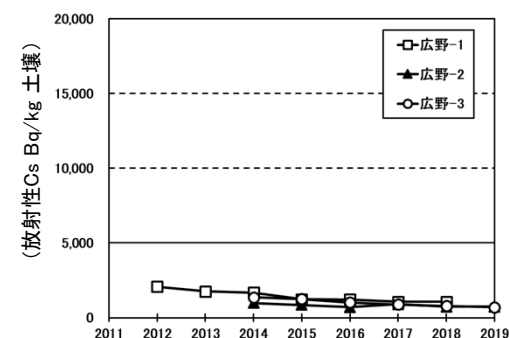
(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。

(令和元年11月2日時点に換算して作成)

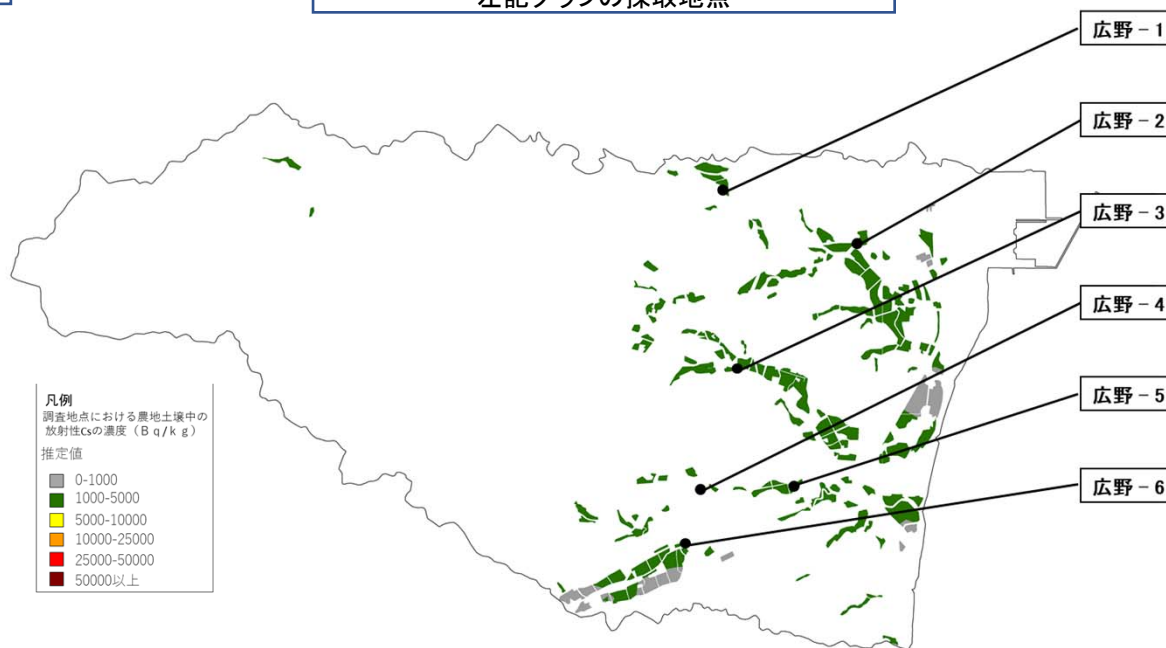
○広野町 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成23年(2011年)9月30日をもって広野町の避難指示区域が解除となり、その結果、町内全面解除(帰還困難区域はなし)となっている。
- ・近年の土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点



(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2001年の農地の分布状況を反映)から作成。

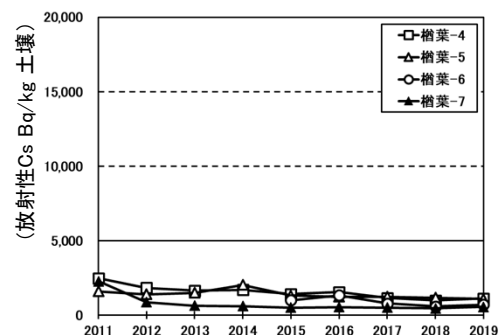
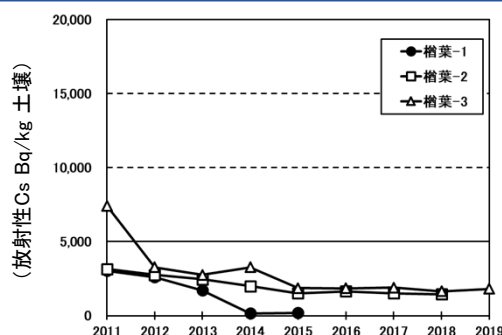
(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。

(令和元年11月2日時点に換算して作成)

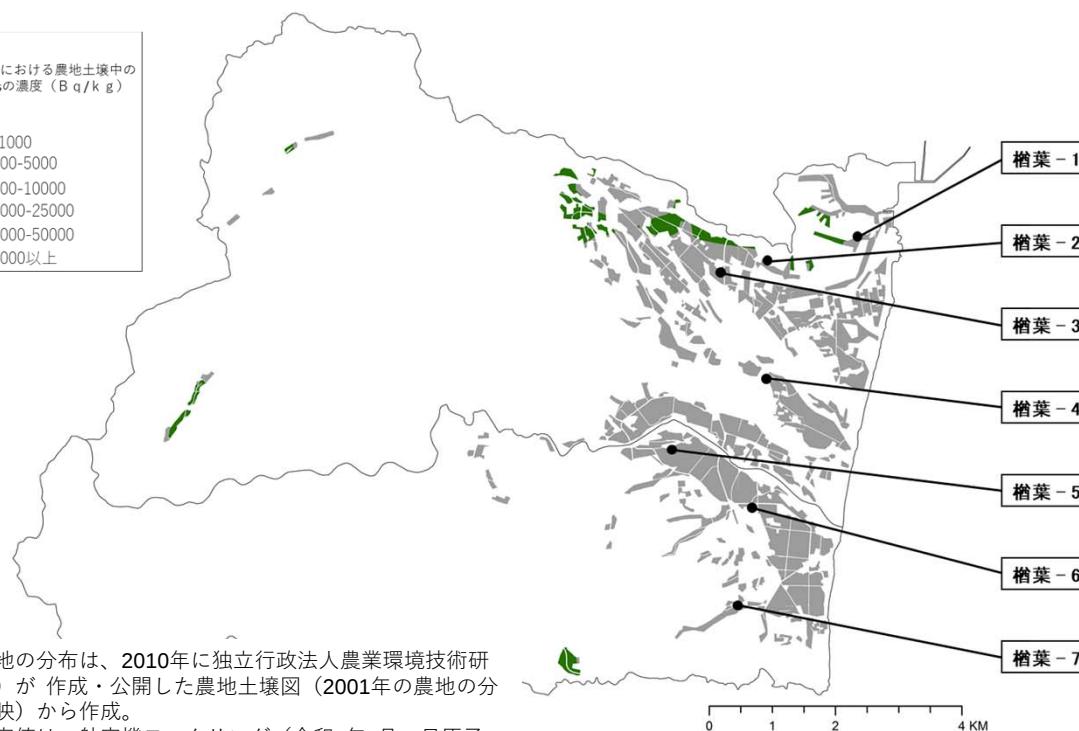
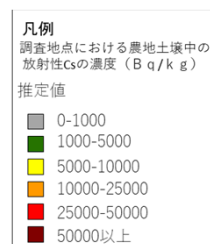
○櫛葉町 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成27年(2015年)9月5日をもって櫛葉町の避難指示区域が解除となり、その結果、町内全面解除(帰還困難区域はなし)となっている。
- ・近年の土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点



(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2001年の農地の分布状況を反映)から作成。

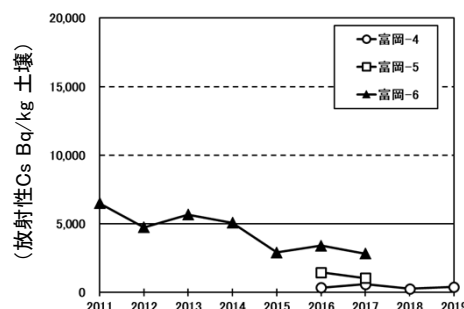
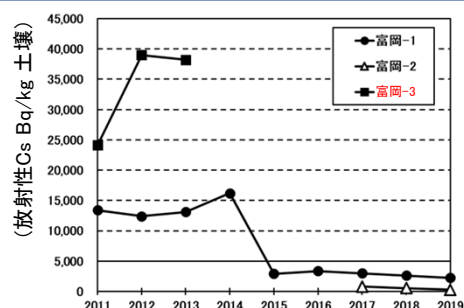
(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。

(令和元年11月2日時点に換算して作成)

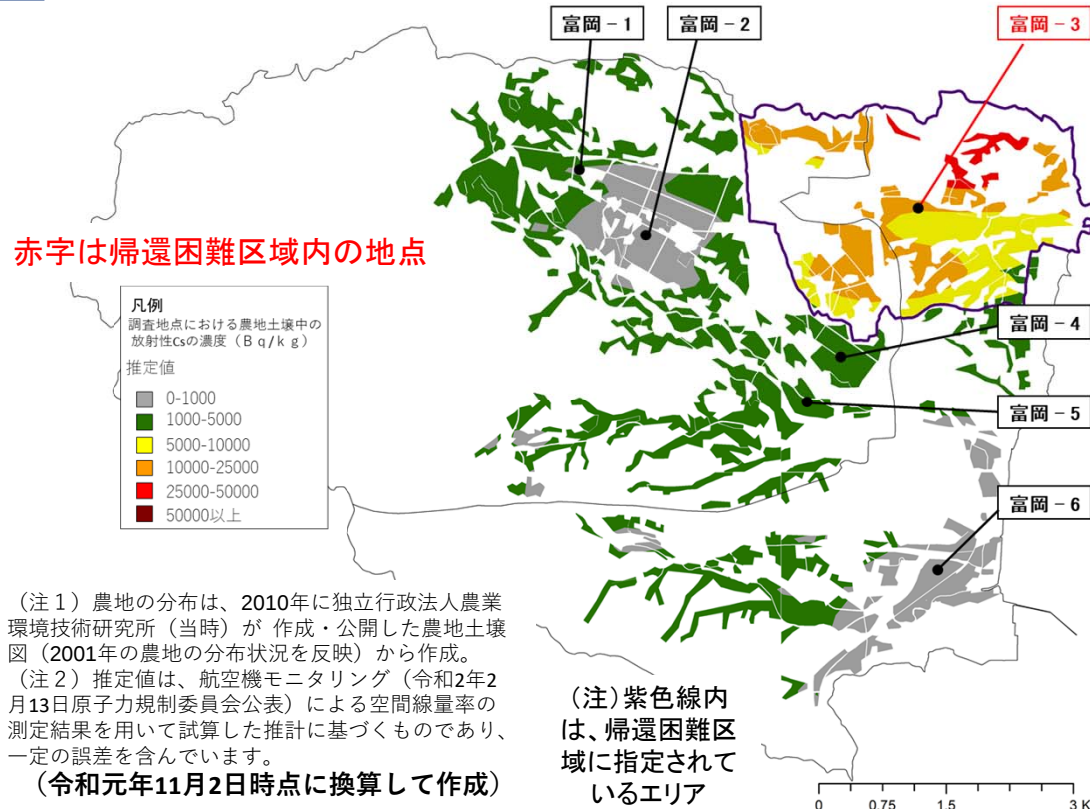
○富岡町 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成29年(2017年)4月1日をもって富岡町の避難指示解除準備区域・居住制限区域が解除となり、現在は町内の一部が帰還困難区域に指定されている。
- ・帰還困難区域外の地域において土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。
- ・今後、富岡町特定復興再生拠点区域復興再生計画にそって、営農再開に向けて取り組んでいくとともに、帰還困難区域内の地点について、計画にそった営農再開と併せて、継続的なモニタリング調査を進めていく必要がある。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



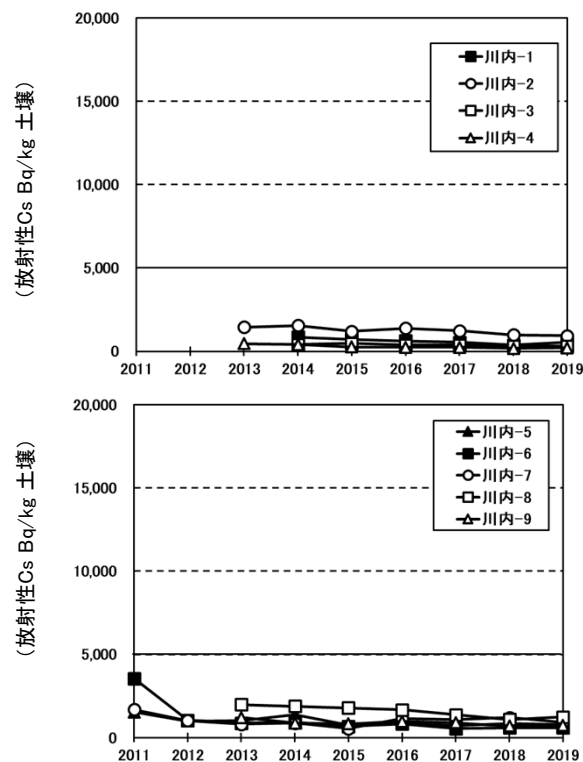
農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点



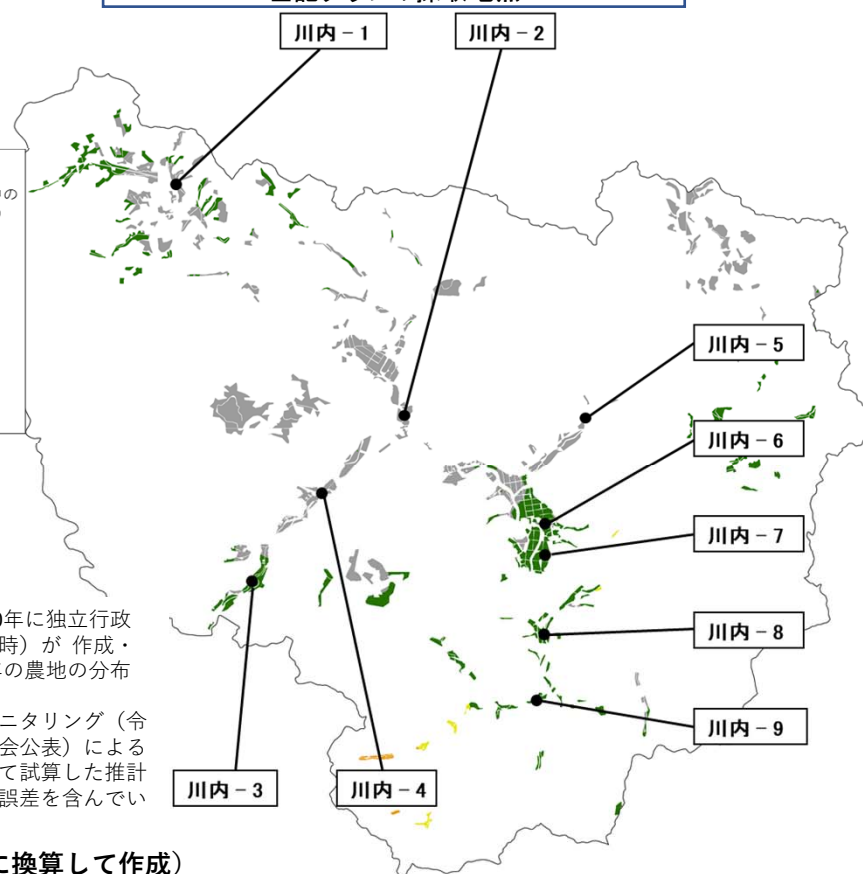
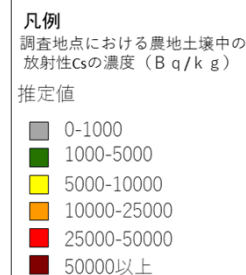
○川内村 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成28年(2016年)6月14日をもって川内村の避難指示区域が解除となり、その結果全面解除(帰還困難区域はなし)となっている。
- ・近年の土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



農地土壌の放射性物質濃度推定図と左記グラフの採取地点



(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2001年の農地の分布状況を反映)から作成。

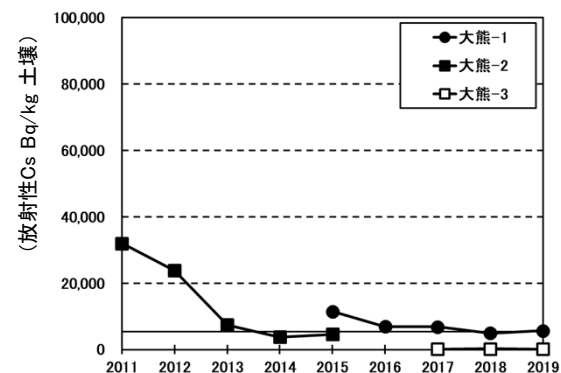
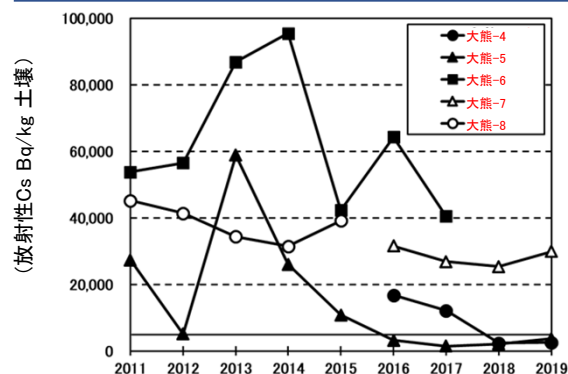
(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。

(令和元年11月2日時点に換算して作成)

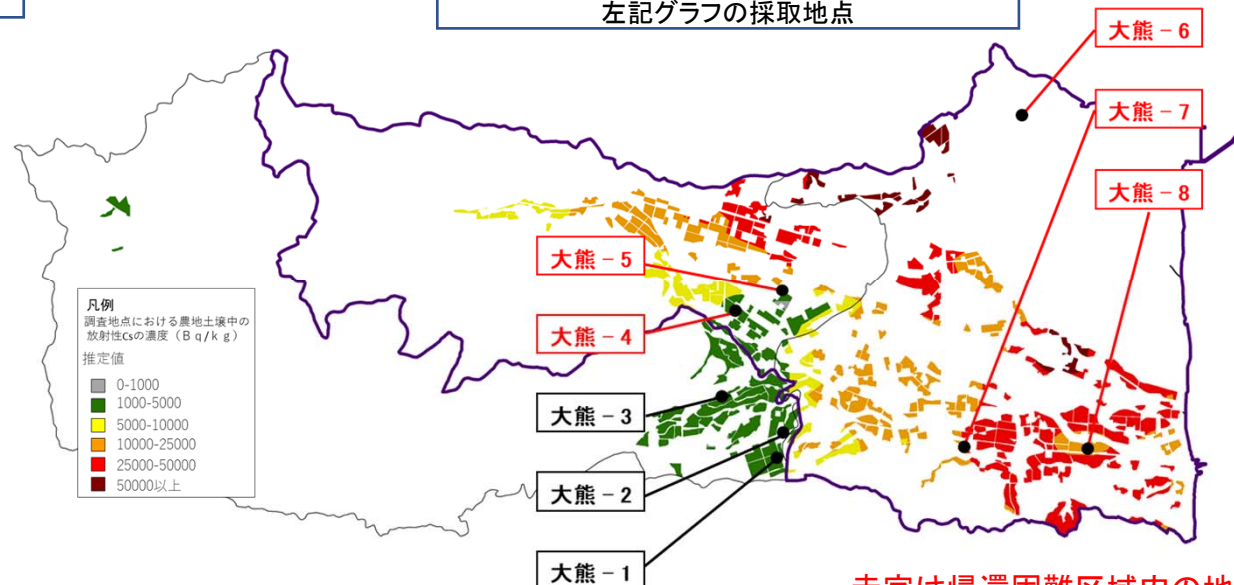
○大熊町 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成31年(2019年)4月10日をもって大熊町の避難指示解除準備区域・居住制限区域が解除となったが、未だ町内の多くが帰還困難区域に指定されている。
- ・帰還困難区域外の地域における土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは一部地点を除き、検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。
- ・今後、大熊町特定復興再生拠点区域復興再生計画にそって、営農再開に向けて取り組んでいくとともに、帰還困難区域内の地点について、計画にそった営農再開と併せて、継続的なモニタリング調査を進めていく必要がある。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点



(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2001年の農地の分布状況を反映)から作成。

(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。

(令和元年11月2日時点に換算して作成)

赤字は帰還困難区域内の地点

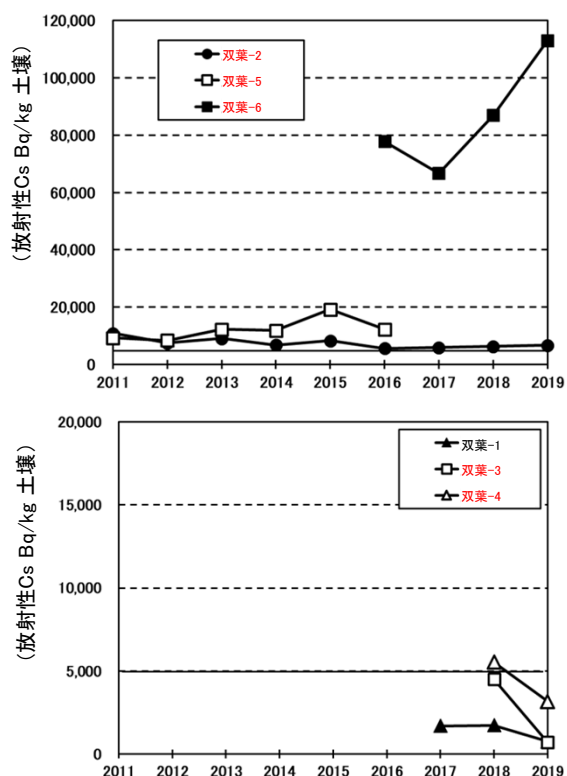
(注) 紫色線内は、帰還困難区域に指定されているエリア

0 1 2 4 KM

○双葉町 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

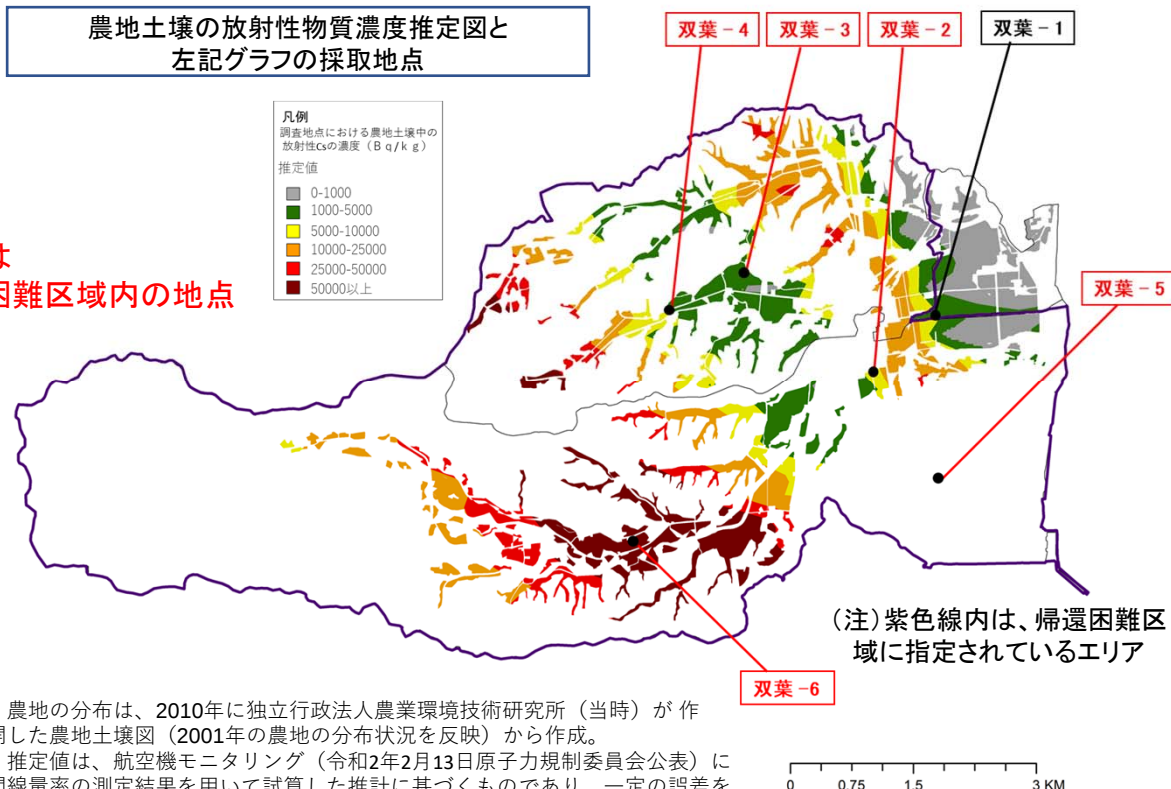
- ・令和2年(2020年)3月4日をもって、双葉町の避難指示解除準備区域が解除となったが、未だ町内の多くが帰還困難区域に指定されている。
- ・帰還困難区域外の地域における土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。
- ・今後、双葉町の特定復興再生拠点区域復興再生計画にそって、営農再開に向けて取り組んでいくとともに、帰還困難区域内の地点について、計画にそった営農再開と併せて、継続的なモニタリング調査を進めていく必要がある。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



農地土壌の放射性物質濃度推定図と左記グラフの採取地点

赤字は
帰還困難区域内の地点



(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2011年の農地の分布状況を反映)から作成。

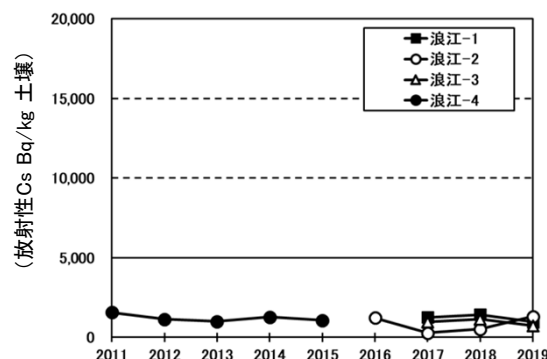
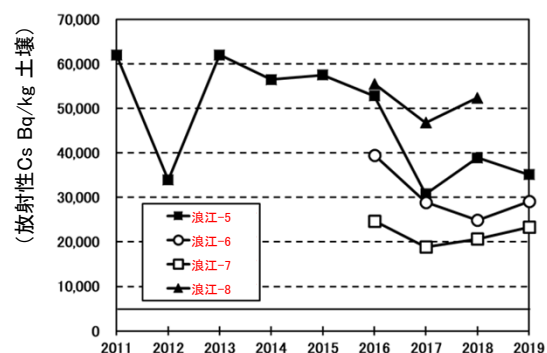
(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。

(令和元年11月2日時点に換算して作成)

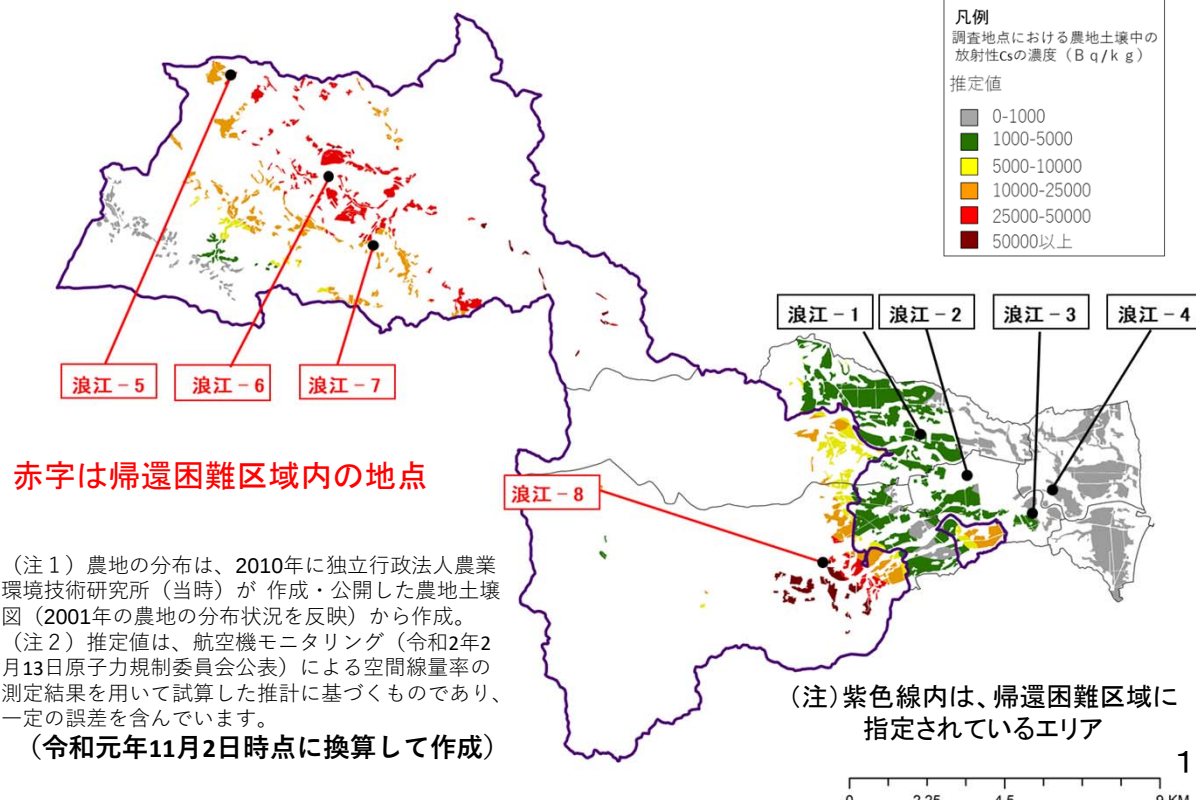
○浪江町 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成29年(2017年)3月31日をもって、浪江町の避難指示解除準備区域・居住制限区域が解除となったが、未だ町内の多くが帰還困難区域に指定されている。
- ・帰還困難区域外の地域における土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。
- ・今後、浪江町の特定復興再生拠点区域復興再生計画にそって、営農再開に向けて取り組んでいくとともに、帰還困難区域内の地点について、計画にそった営農再開と併せて、継続的なモニタリング調査を進めていく必要がある。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



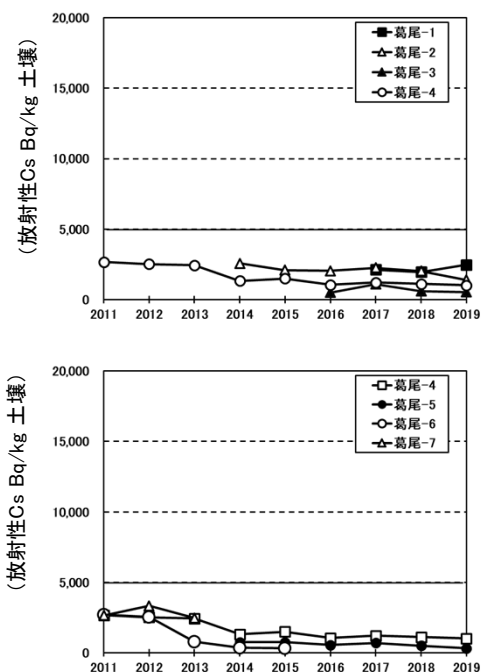
農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点



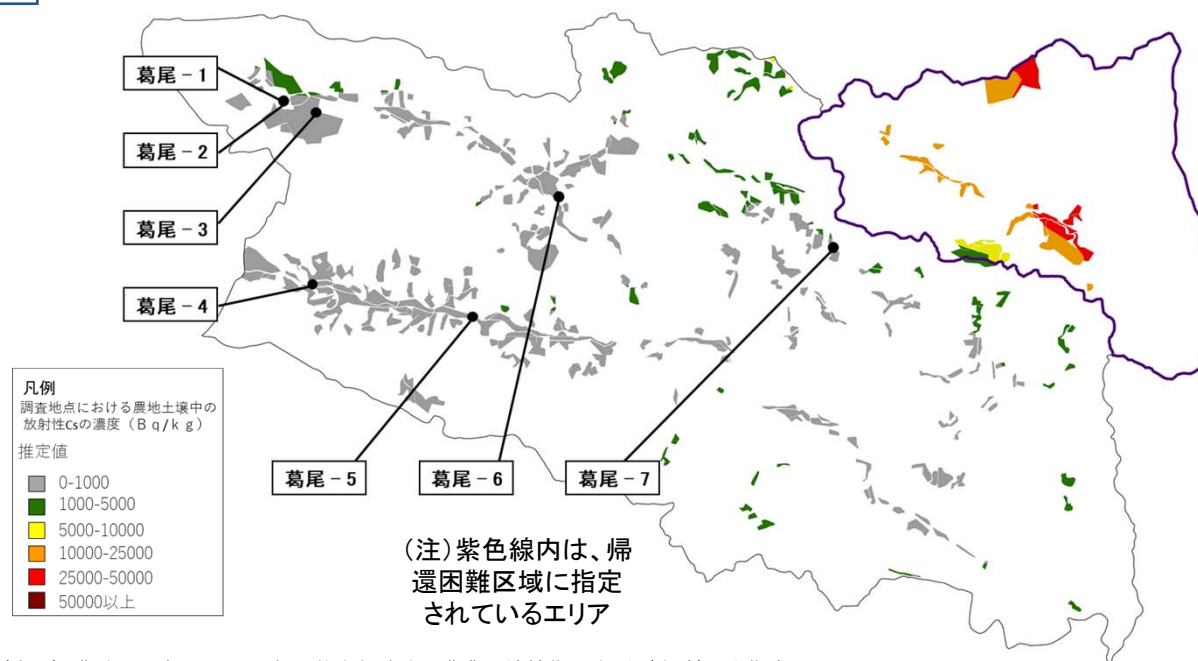
○葛尾村 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

- ・平成28年(2016年)6月12日をもって、葛尾村の避難指示解除準備区域及び居住制限区域が解除となり、現在は村内の一部が帰還困難区域に指定されている。
- ・帰還困難区域外の地域における土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。
- ・今後、葛尾村特定復興再生拠点区域復興再生計画にそって、営農再開に向けて取り組んでいくとともに、帰還困難区域内の地点について、計画にそった営農再開と併せて、継続的なモニタリング調査を進めていく必要がある。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



農地土壌の放射性物質濃度推定図と
左記グラフの採取地点



(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2001年の農地の分布状況を反映)から作成。

(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。

(令和元年11月2日時点に換算して作成)

0 1 2 3 4 km

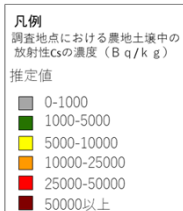
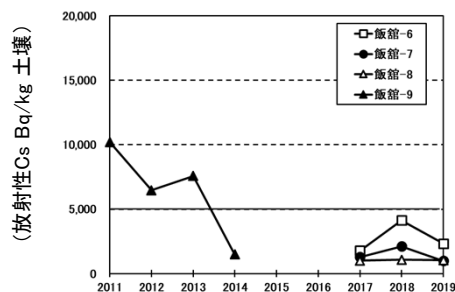
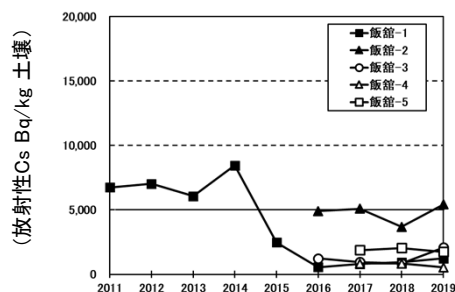
○飯舘村 農地土壌の放射性物質濃度の経年変化

平成29年(2017年)3月31日をもって、飯舘村の避難指示解除準備区域及び居住制限区域が解除となり、現在は村内の一部が帰還困難区域に指定されている。

・帰還困難区域外における土壌調査では、5,000 Bq/kgを超える放射性セシウムは、一部地点を除き、検出されておらず、空間線量率による推計値も比較的低い値となっている。

・今後、飯舘村の特定復興再生拠点区域復興再生計画にそって、営農再開に向けて取り組んでいくとともに、帰還困難区域内の地点について、計画にそった営農再開と併せて、継続的なモニタリング調査を進めていく必要がある。

土壌採取により測定した放射性物質濃度の推移



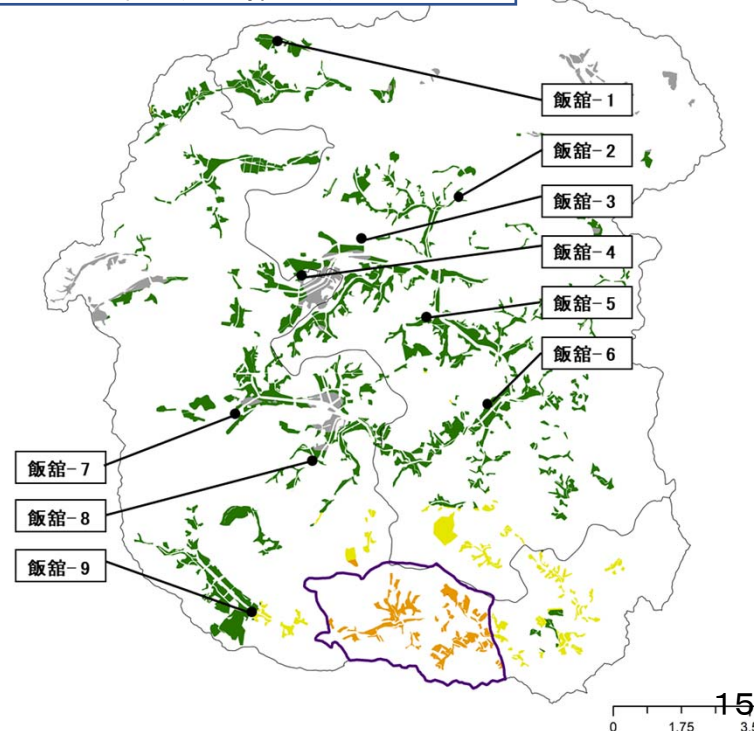
(注) 紫色線内は、帰還困難区域に指定されているエリア

(注1) 農地の分布は、2010年に独立行政法人農業環境技術研究所(当時)が作成・公開した農地土壌図(2001年の農地の分布状況を反映)から作成。

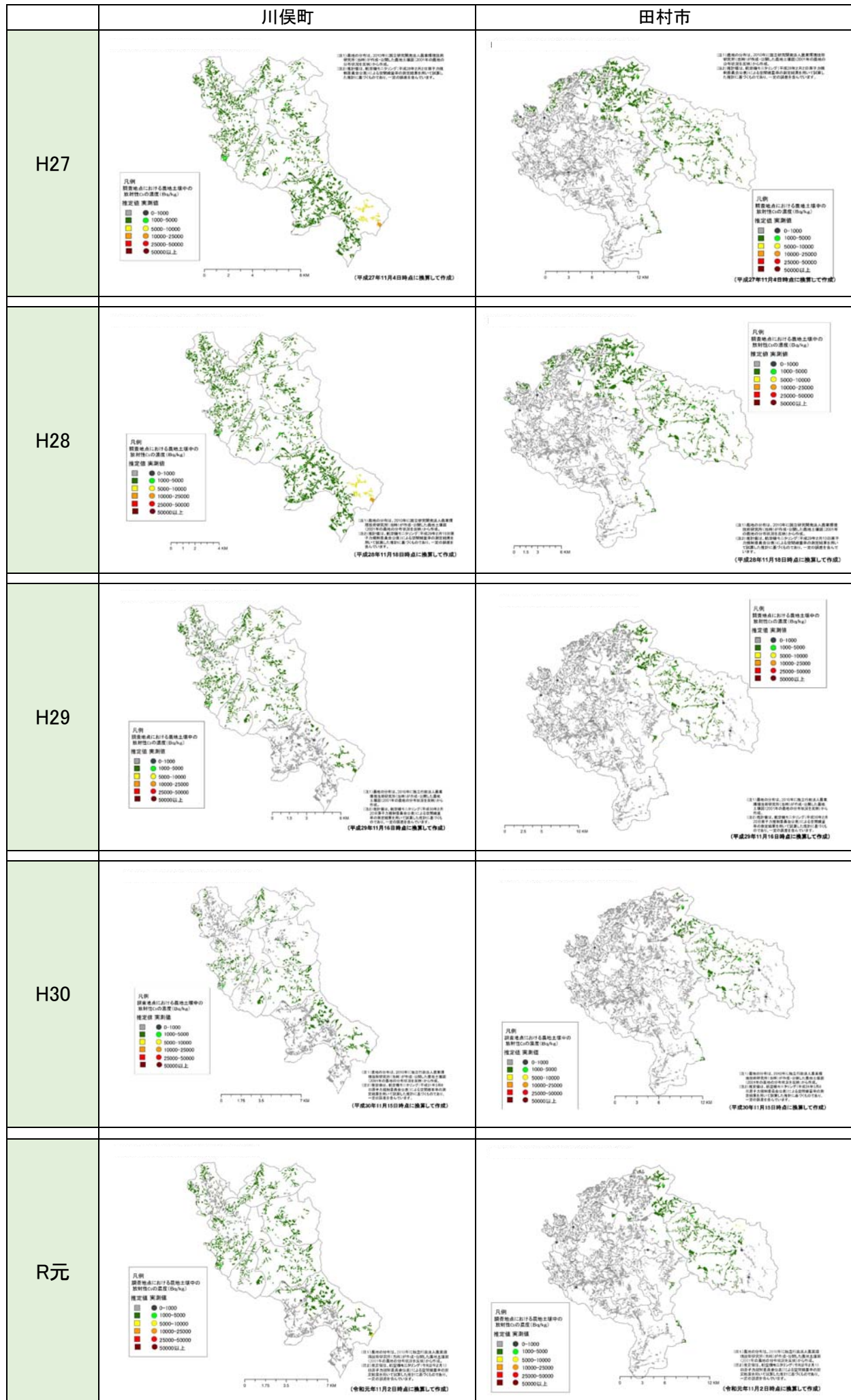
(注2) 推定値は、航空機モニタリング(令和2年2月13日原子力規制委員会公表)による空間線量率の測定結果を用いて試算した推計に基づくものであり、一定の誤差を含んでいます。

(令和元年11月2日時点に換算して作成)

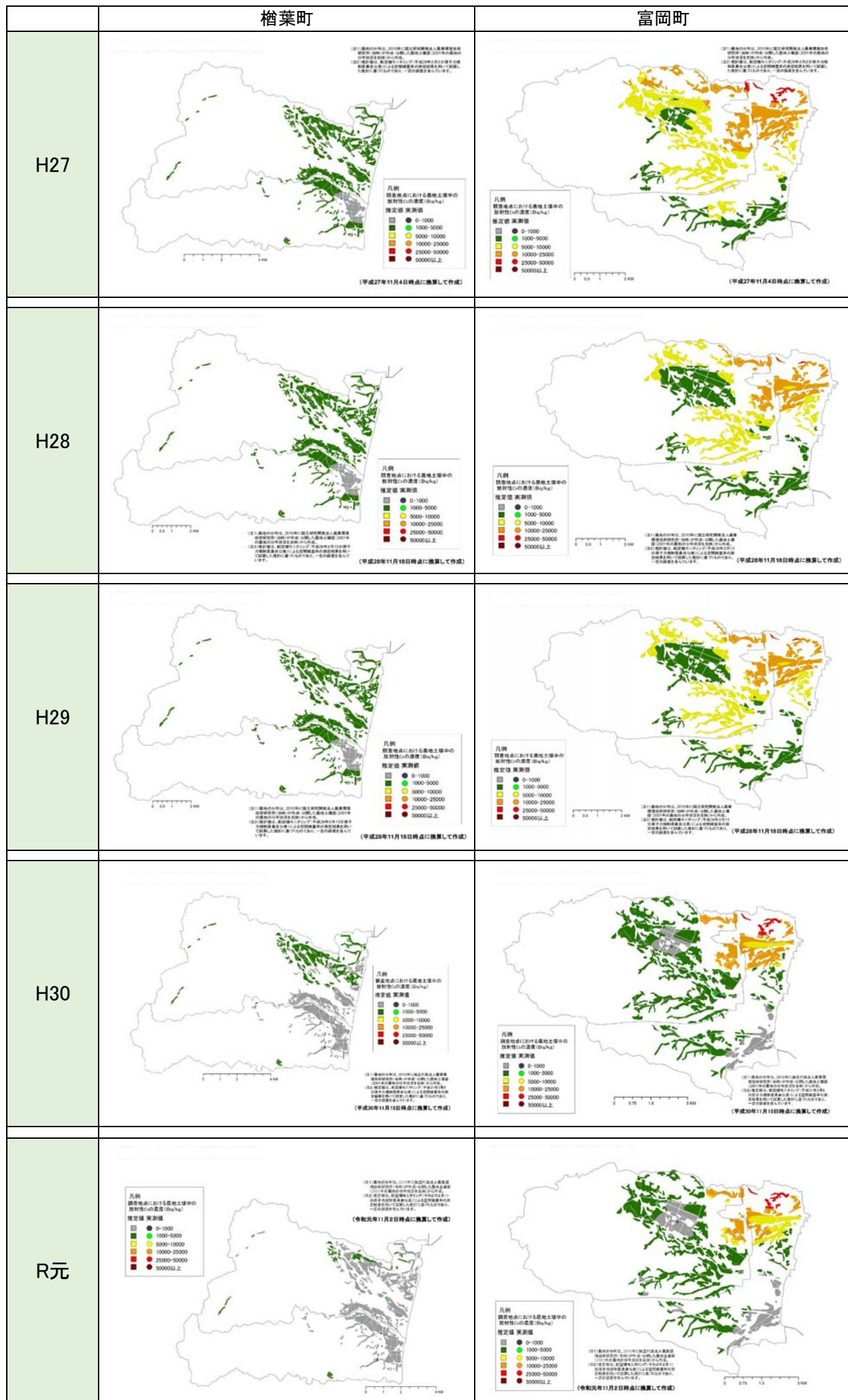
農地土壌の放射性物質濃度推定図と左記グラフの採取地点



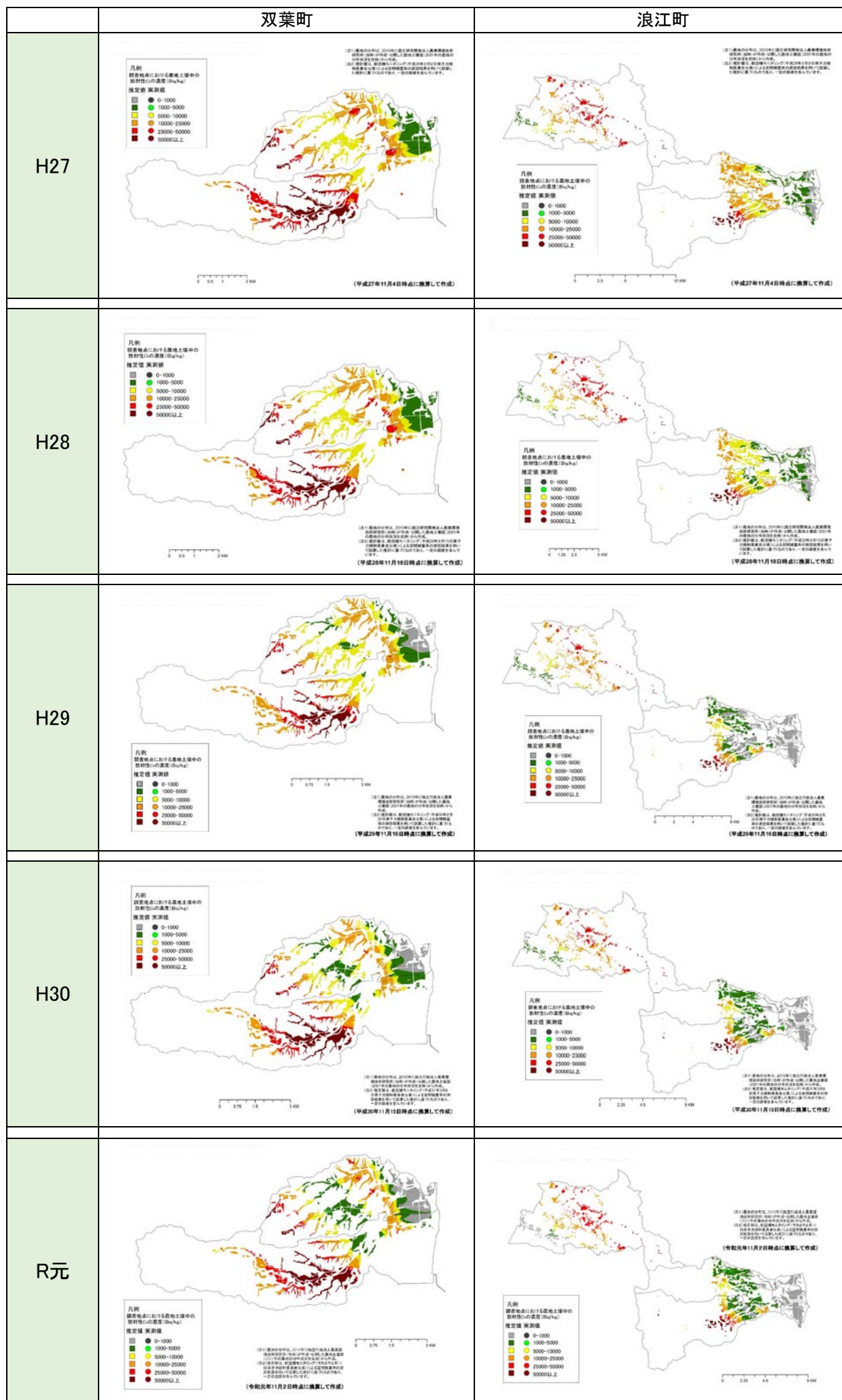
2. 原子力被災12市町村における農地土壌中の放射性物質濃度分布図の経年変化について

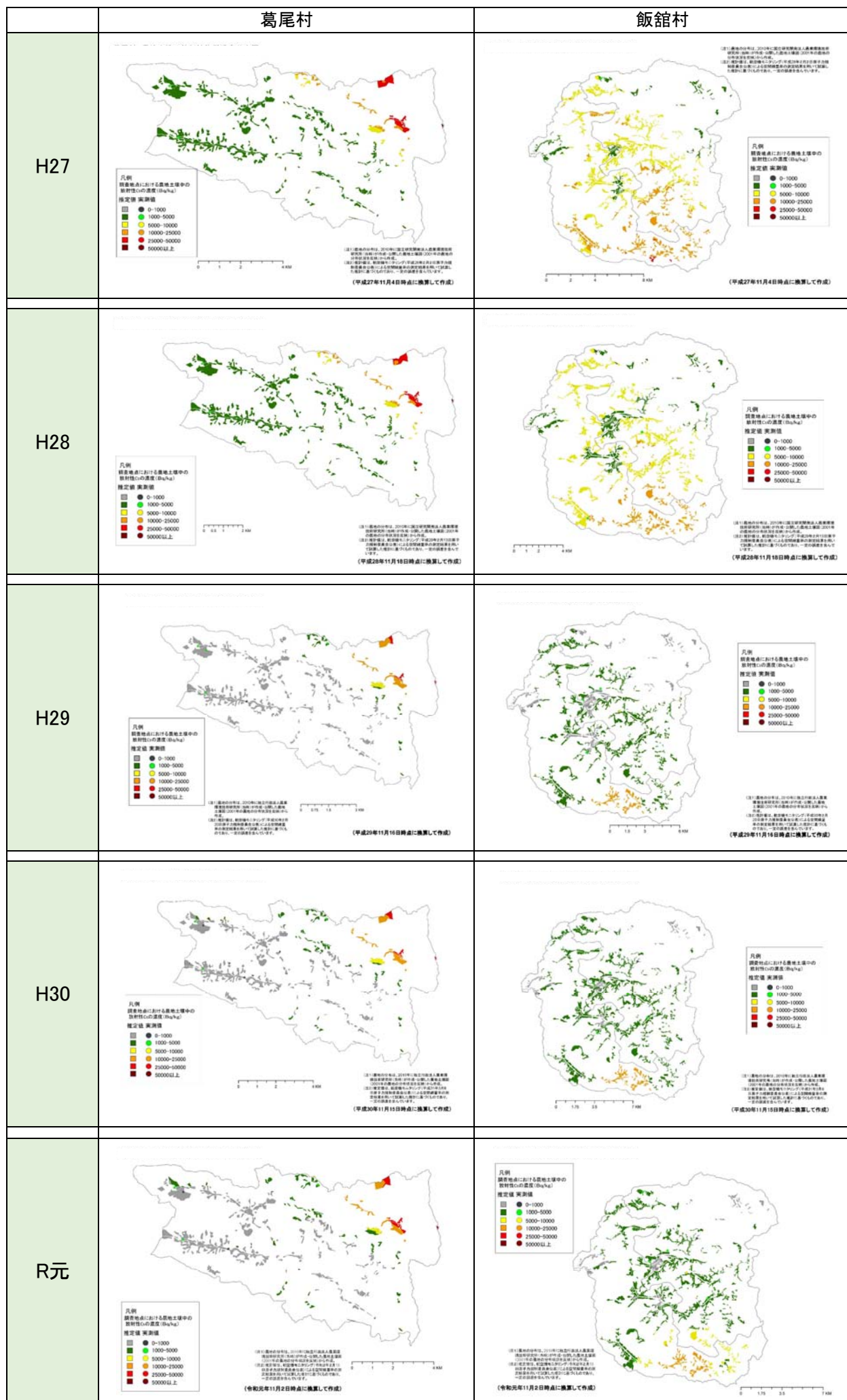


	南相馬市	広野町
H27	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (平成27年11月4日時点に換算して作成)	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (平成27年11月4日時点に換算して作成)
H28	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (平成28年11月18日時点に換算して作成)	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (平成28年11月18日時点に換算して作成)
H29	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (平成29年11月18日時点に換算して作成)	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (平成29年11月18日時点に換算して作成)
H30	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (平成30年11月15日時点に換算して作成)	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (平成30年11月15日時点に換算して作成)
R元	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (令和元年11月2日時点に換算して作成)	凡例 調査地点における農地土壌中の 放射性セシウムの濃度 (Bq/kg) 推定値 実測値 0-1000 1000-5000 5000-10000 10000-25000 25000-50000 50000以上 (令和元年11月2日時点に換算して作成)



	川内村	大熊町
H27		
H28		
H29		
H30		
R元		





○福島県における農地土壤中の放射性物質濃度分布図の経年変化について

